

# 加耶諸国の対外関係史の 論点と視点

The Viewpoint of History of Foreign Relations  
of the Gaya Nations

李 永 植

- ①対外関係の特色
- ②対外関係の資料
- ③対外関係の内容
- ④対外関係史の流れ

## 【論文要旨】

本論文は、加耶諸国の対外関係史の復元と再構成に関する最近の争点と研究視点の幾つかを①対外関係の特徴、②対外関係の資料、③対外関係の内容、④対外関係史の流れ—a. 加耶諸国間の関係、b. 加耶諸国の対外関係、に分けて整理、提示したものである。

加耶諸国の対外関係は加耶各國の利害関係により、加耶諸国間の交渉と韓三国・中国・倭国間の交渉という二元構造で展開された。前者の、加耶を一つの運命共同体のように捉える加耶連盟説は、社会発展段階論と加耶諸国間の関係についての説明のすべてにわたって止揚されなければならない。後者については、任那不在の任那日本府論のように倭または百濟を中心に据え、加耶諸国は他律的存続であったと捉える視点は止揚されなければならない。

前者について言えば、近年韓国学会において加耶各國史の再構成という視点と研究主題の設定によって克服されつつあり、後者については、任那日本府を大和派遣の外交使節と捉え、その外交活動について、安羅国王の統制下で百濟と新羅の狭間で国家的独立を維持しようとした加耶諸国の利害関係と努力に通ずるものとして解釈されている。加耶諸国の対外関係史研究において何より重視すべきことは、加耶諸国の自律的発展論と交渉相手国との現実的利害関係についての発明であると考える。